

関大 メデイカル シンポジウム ポリマー

2016(平成 28)年度 文部科学省私立大学研究ブランディング事業選定
「人に届く」関大メディカルポリマーによる未来医療の創出
KU-SMART PROJECT
Smart Materials for Advanced and Reliable Therapeutics

2020

1/24 ●
金

10:00 - 15:30

基調講演

「新規バイオナノトランスポーター
の創製と医療応用」



秋吉一成 教授

京都大学大学院工学研究科
高分子化学専攻 生体機能高分子研究室

日 時

場 所

申 込

関西大学 千里山キャンパス
100周年記念会館 ホール2



申込フォームにアクセスし、
必要事項をご入力のうえ
送信してください。

申込受付期間
2019.11/25 - 2020.1/21

申込フォーム：<http://bit.ly/2020KUMP>

入 場

無料

同時開催

第 24 回 関西大学先端科学技術シンポジウム

2020.1.23 (木) - 2020.1.24 (金)
関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館

特別講演 「関大メディカルポリマーで届ける未来医療」
本事業研究代表者 大矢裕一 化学生命工学部 教授
※参加申込につきましては、後日 web サイトでお知らせいたします。

関大メディカルポリマーシンポジウム

基調講演

「新規バイオナノトランスポーターの創製と医療応用」

核酸やペプチド・タンパク質、また近年注目されている細胞外ベシクル（エクソソーム）などのバイオ医薬品は、革新的な次世代医薬品として期待されています。一方で、一般に安定性が低く製剤化が難しいことや体内での分解や不活化を受けやすく半減期が非常に短いなどの課題もあります。そこで、バイオ医薬品を安定に目的の部位、かつ必要な時間に、送達、発現、あるいは徐放させることのできるドラッグデリバリーシステム(DDS)の進展が望まれています。我々は、生体分子システムを規範としたナノゲル工学（自己組織化ナノゲル基盤材料の設計とワクチン、再生医療応用）、プロテオリポソーム工学（膜タンパク質搭載人工細胞の設計と機能）、エクソソーム工学（ハイブリッドエクソソーム、エクソソーム糖鎖工学と医療応用）を駆使して、種々のバイオ医薬品や分子マーカーの徐放制御や選択的輸送を行える機能性ナノ微粒子（バイオナノトランスポーター）の創製とそのバイオ、医療応用に関する研究を展開してきました。

本講演では、我々の最近の研究のいくつかを紹介します。

あきよし かずなり

秋吉 一成 先生

京都大学工学研究科高分子化学専攻 生体機能高分子分野 教授

【ご略歴】

- 1980年 九州大学工学部合成化学科卒業
- 1985年 九州大学大学院工学研究科合成化学専攻博士課程修了
- 1985年 米国 Purdue大学化学科博士研究員（根岸英一教授）
- 1987年 長崎大学工学部工業化学科講師
- 1989年 京都大学工学部高分子化学科助手
- 1993年 京都大学大学院工学研究科合成・生物化学専攻助教授
- 1997年 フランス、ルイ・パスツール大学客員助教授
- 1999年 科学技術振興事業団さきがけ研究21「組織化と機能」研究員兼任
- 2002年 東京医科歯科大学生体材料工学研究所有機材料分野 教授
- 2005年 東京工業大学精密工学研究所、客員教授(2007年まで)
- 2010年 京都大学工学研究科高分子化学専攻教授
- 2011-2018年 JST-ERATO 秋吉バイオナノトランスポーター プロジェクト 研究総括兼任
- 2017-2018年 ノルウェー、NTNU (Norwegian University of Science and Technology)客員教授

【受賞等】

- 日本化学会、若い世代の特別講演賞(1994)
- 高分子学会賞(1998)
- 2001 Barre Lecturer Awards, the University of Montreal, Canada(2001)
- MHS2007 Best paper awards IEEE 2007(2007)
- 第14回日本DDS学会永井賞(2014)
- 日本化学会賞(2018)
- 平成29年度文部科学大臣表彰科学技術賞(2018)



お問合せ先：K U – S M A R T プロジェクト事務局

☎: 06-6368-1178 Mail : kusmart@ml.kandai.jp